

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童支援ベガサス・児童支援ベガサス個別療育プログラム教室		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日		2025年12月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		2025年12月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 18
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月31日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間の清潔さや構造化された環境について、保護者・職員双方から高い評価を得ている	毎朝・支援前後のミーティングで情報共有を行い、支援の質の均一化を図っている	職員間で支援の質に差が生じないよう、定期的な研修や事例検討を実施し、支援方法や関わり方について共通理解を深める。
2	子どもたちが安心感をもって通所し、通所を楽しみにしている様子が多く見られる	連絡帳・LINE・電話・面談など複数の手段を活用し、保護者との連携を重視している	活動プログラムについて、子どもの発達段階や特性に応じた内容となるよう見直しを行い、プログラムの種類や幅を広げていく。
3	日々の連絡帳や公式LINE、面談等を通じて、保護者との情報共有や相談対応が丁寧に行われている	活動プログラムが固定化しないよう、定期的に見直しや改善を行っている	面談や連絡帳、公式LINE等を活用し、保護者との情報共有や相談対応を引き続き丁寧に行う。
4	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が安定して提供されている	年2回以上の避難訓練や防災訓練を実施し、安全意識の向上に努めている	家族支援の充実を目的として、家庭での関わり方に関する助言や情報提供を行うとともに、必要に応じて保護者同士の交流機会の創出を検討する。
5	職員間のミーティングを通じて、支援内容や業務改善について意見交換が行われている		避難訓練や防災訓練を継続的に実施し、子どもたちが安心して通所できる安全な環境づくりに努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員によって支援の捉え方やスキルに差があると感じられる場面がある	職員研修やOJTの内容・頻度にばらつきがあり、スキルの均一化が十分でない	職員研修の充実と定期的な振り返りを行い、支援の質の均一化を図る
2	活動プログラムの種類について、さらなる充実を求める意見が一部見られる	感染症流行等の影響により、地域交流や保護者参加型イベントの実施が難しかった	活動プログラムの見直し・新規導入を行い、個別・集団双方の支援内容を充実させる
3	家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)や保護者同士の交流機会が十分とは言えない	管理者中心で対応している業務が多く、職員全体での関与が限定的になっている部分がある	面談や家庭連携に加え、保護者向けの情報提供や交流機会の拡充を検討する
4	地域交流や他機関との交流機会が限定的である		各種マニュアルや安全計画について、保護者への説明・周知を強化する
5	各種マニュアルの内容について、保護者への周知が十分でない部分がある		地域や関係機関との連携を段階的に広げ、地域に開かれた事業運営を目指す